

2013.12.15発行

2013
12月
第46号

かい
海

公民館報

よう
陽



第8回海陽町文化祭参加作品

身近なことから考える人権
 ～みんなを好きに～

みんなを好きに 金子みすゞ

私は好きになりたいな、
 何でもかんでもみいんな。

葱ネギも、トマトも、おさかなも、
 残らず好きになりたいな。

うちのおかずは、みいんな、
 母さまがおつくりになつたもの。

私は好きになりたいな、
 誰でもかかれてもみいんな、

お医者さんでも、鳥(カラス)でも、
 残らず好きになりたいな。

世界のもののみいんな、
 神さまがおつくりになつたもの。

第55回 人権週間

12月4日～10日は、人権週間です。

世界人権宣言の趣旨とその重要性を広く国民に訴えたと共に、人権尊重意識の普及と高揚を図るため、毎年様々な啓発活動が行われます。人権の世紀を築くため、「相手の気持ち」を考え、「思いやりの心」を育てましょう。

方や意見の違いに触れ、自分の考え方や価値観を広げる場を設けました。最後に、「ビデオ「桃香の自由帳」を見て、「人と人とのつながり」について考えました。少子高齢化、核家族化など私たちを取り巻く環境が変化

する中で、人間関係が希薄になつていると言われますが、だからこそ大切なのは、「人と人とのつながり」ではないでしょうか。

人権学習は、自分自身の心の在り方に深く関わっています。人のことはともかくとして、まず「自分はどうかだろうか」と、自らを問い直すことから始めたいと思います。

昨年からは、子育て世代の参加や、大人が学ぶ姿を見ることが子どもの育ちにもつながることが期待して、「親子での参加」を呼びかけていますが、今年

は6名の小学生が参加してくれました。こうした動きが他の地域へと広がり、より多くの子育て世代の参加へとつながればと願っています。

「分館巡回学習会」は、地域の人たちが「場」を共有し、映画を見たり、共通の話題について話し合ったりすることを通して、互いに理解を深め、温かい人間関係や人権が共存する社会(相手を大切にすることは、自

分を大切にする)を築いていくことを目指しています。その内容も知識として人権を学ぶというよりも、「人にやさしく、おもいやりを持って、親切にしよう」という気持ちを身に付け、日常生活の中で実践してもらうように努めることを大切にしていきます。

誰もが住みよい「まちづくり」の第一歩は、互いの人権を尊重し(人を大切にしたい)、自分ができることから始めることです。これからは、人と人が豊かにつながり、助け合い、共に生きる社会について考えていきましょう。

(社会教育指導員 谷崎淑文)

「分館巡回学習会」は、地域の人たちが「場」を共有し、映画を見たり、共通の話題について話し合ったりすることを通して、互いに理解を深め、温かい人間関係や人権が共存する社会(相手を大切にすることは、自

分を大切にする)を築いていくことを目指しています。その内容も知識として人権を学ぶというよりも、「人にやさしく、おもいやりを持って、親切にしよう」という気持ちを身に付け、日常生活の中で実践してもらうように努めることを大切にしていきます。

誰もが住みよい「まちづくり」の第一歩は、互いの人権を尊重し(人を大切にしたい)、自分ができることから始めることです。これからは、人と人が豊かにつながり、助け合い、共に生きる社会について考えていきましょう。

「障害者週間」

12月9日は、1975年の国連総会で、「障害者の権利宣言」が採択された日です。障害者基本法では、毎年12月3日から9日までの1週間を「障害者週間」と定めています。国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として、様々な取り組みが展開されています。

10月6日(日) 共楽運動会

海陽町共楽運動会が各公民館（川東・浅川・川上・海部・穴喰）で行われた。
 今年は、早朝まで雨が残り、川上地区においては、翌週の13日に延期されながらも開催されました。子どもから高齢者までたくさんの方が参加し、熱戦が繰り広げられました。地域をあげての運動会だけにどのチームも手に汗握る闘いぶりでした。



もう一踏ん張り



アハハ〜(笑)



川東公民館



ハイッ！
タッチ！



なかなか、入らん!!



僕たちも頑張ってるよ



手をつかったらダメなん？

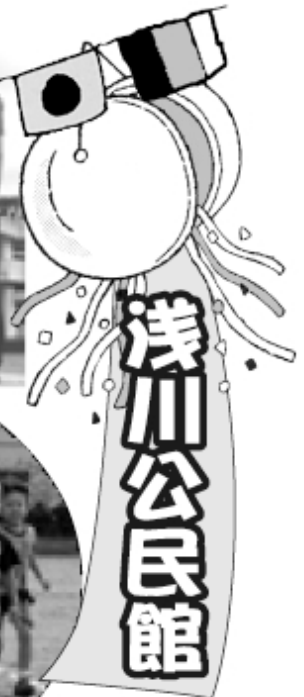


びよ〜ん

びよ〜ん



ころ〜
ころ〜



神野



平井



神野



相川



神野



相川



相川



平井



小川



平井



がぶっ—



来た、来た。



海部公民館



ボールをしっかりと挟もう！



カメラ目線！



任して！



あんまり、顔よこさないで。



パタッ！パタッ！



こつん！



10月27日(日)から11月10日(日)までの期間、海陽町文化祭が町内3会場(海南文化村・海部公民館・穴喰小学校体育館)でそれぞれ開催されました。各会場とも、子どもから高齢者の方までたくさんの作品が展示され、期間中には俳句大会・川柳大会・囲碁大会・お茶会・押し花体験・芸能大会などがあり、町内外からたくさんの方々が訪れ賑わいました。

第8回海陽町文化祭 2013

作品展示

— 海南会場 —



小学生俳句



小学生作品



陶芸



書道



布絵



絵画



案山子



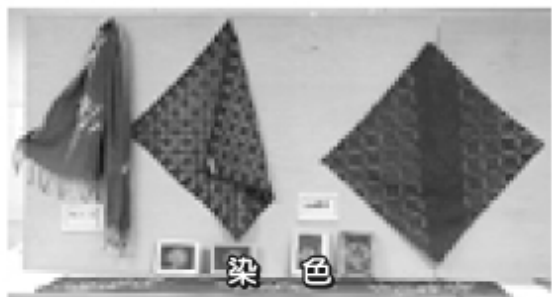
絵手紙



中学生作品



写真



染色



水墨画

「海部会場」



木工



二葉保育園作品



海部西保育所



写真



中学生作品



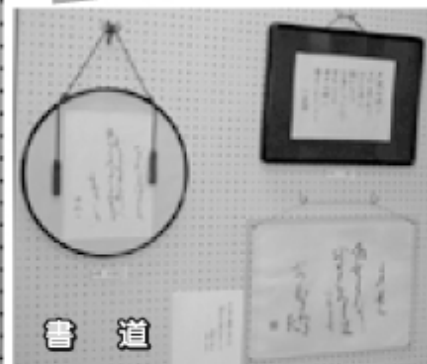
藤筆



高校生作品



短歌



書道



海部西保育所



小学生作品



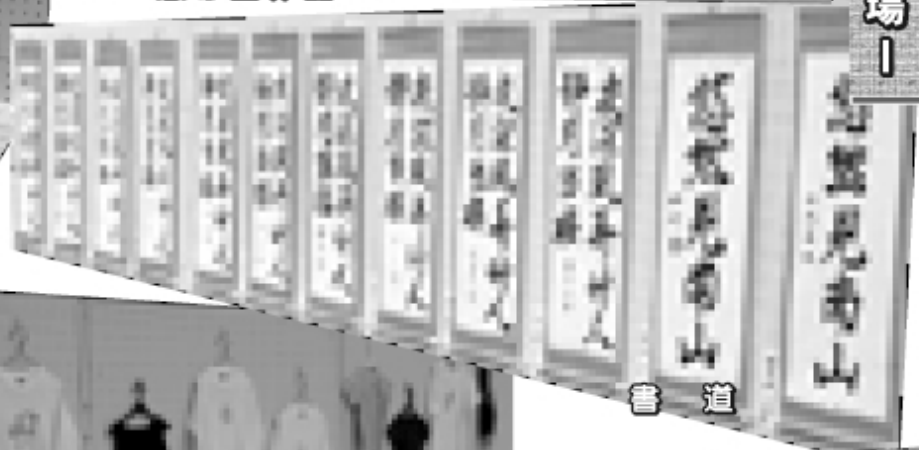
「大喰会場」



生け花



恵の園作品



書道



染色



絵画



中学生作品



緑風会作品



書道



小学生作品



アートフラワー



写真

芸能大会

—海南文会場—



箏



バンド



太鼓

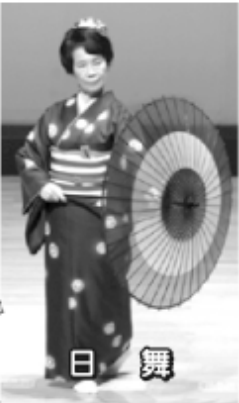


民踊

詩舞



刀



日舞



阿波踊り



民踊



合唱



カラオケ



日舞



二葉保育園



カラオケ



バレエ



社交ダンス

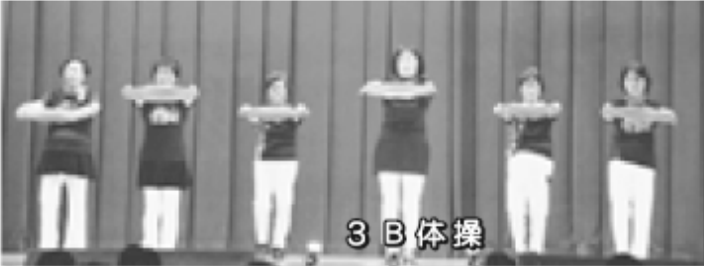
「大喰会場」



大正琴



フィリピン民踊



3B体操

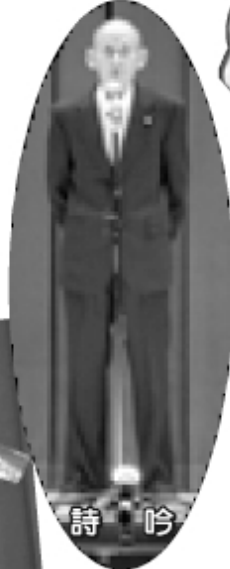


日舞

ハープ演奏



民踊



詩吟



レクダンス



箏



カラオケ



合唱



三味線

「学生の部」



■穴喰中学校音楽部



■海陽中学校
プラスバンド部



■海部高校郷土芸能部



■海部高校器楽部





11月19日(火)海南文化館で町内全小学生を対象に、劇団野ばらによる児童劇が開催されました。毎年、子ども達がすぐれた児童文化にふれ、感受性を豊かに発達させることが目的に実施しています。この作品を鑑賞された小学生の感想文の一部をご紹介します。

海南小学校 5年 山本 歩実

私は、今日の劇を見て伝えることの大切さが分かりました。私は、たまに自分の気持ちがうまく伝えられないことがあります。でも、今日の劇で自分の気持ちは自分で伝えなければみんなには自分の気持ちがわからないということが分かったので、これからは気持ちをちゃんと伝えられるように努力できたらいいなと思いました。

海南小学校 6年 浦上 恒輝

今日の劇は、すごく勉強になりました。生き物も人間と同じ大切な命なんだと思いました。健太郎はさびしかったけどだれにもその気持ちを言えなかったから暴力をふるっていたんだと思います。でも、最後には気持ちが言えるようになったので、僕も健太郎のように暴力を使わずに気持ちを伝えたいと思いました。

海部小学校 6年 築地 真生

この劇を見て私は、動物や生き物を大切に思う気持ちを持ち、そして自分の気持ちをきちんと相手に伝えることが大切だと感じました。動物や生き物を大切に思える人は、心が優しく、おだやかで、家族や友達も大切にできる人だと思いました。また、自分の気持ちをきちんと相手に伝えることは、自分の考えをしっかりと持てるということだと思いました。私も、この劇の主人公の健太郎のように自分を変えていけるようにがんばりたいです。

穴喰小学校 5年 新居 彩乃

私は、「あした あさって しあさって」を見て、健太郎は、すぐ暴力をふるうし、いやなことをするから、私はいじわるだなあと思いました。でも健太郎は、本当はすごくやさしい人なんだとだんだん思って来ました。早くにお母さんがいなくなっていたのですごくつらいなと思いました。私が一番心に残ったのは、犬のジロウと健太郎が昔みたいにいっしょに遊んでいるところです。健太郎は、自分に足りなかった物をさがしに行きつけて最後にはとってもいい家族になったのですごく良かったなと思いました。劇団野ばらの人々たちも、すごく上手で歌がすごくてびっくりしました。私は、この児童劇を見て良かったです。

穴喰小学校 6年 野村 小夏

私は、この劇を見て自分だけでなく人のことも考えなければいけないと思いました。自分だけがかわいそう、自分は人とちがうと思っていたから主人公があんな風になってしまったんだと思いました。私も「自分だけが」と思った時があります。この劇の主人公のようになっていました。でも、主人公はゲームのおかげで気持ちが変わったので良かったです。私も今はそんな風に思いません。動物などに石などを投げたりいじめたりしてはいけないと思いました。動物も人間と同じだと思いました。

海陽町分館交流スポーツ大会 ～グラウンドゴルフ～

11月26日(火)、大里松原グラウンドゴルフ場を会場に、海陽町公民館主催の第7回海陽町分館交流グラウンドゴルフ大会が開催され、106名が参加しました。

大会は、個人戦で行われ、総打数を競い合いました。ホールインワン賞は27名の方々が受賞されました。参加者たちは、「あーっ、おいしい!」「入った!」「やった〜!」など、あちこちで歓声が広がっていました。



プレーを楽しむ皆さん



表彰を受ける、栗林さん



大会結果

【優勝】栗林トキコさん(海部) スコア32 【準優勝】北上 鳶江さん(川上) スコア34

総合型地域スポーツ

のんびりウォーク

11月17日(日)海陽町総合型地域スポーツクラブ『海陽愛あいクラブ』が中心となり、コースは浅川地区を中心にのんびりウォークを実施しました。

当日は、幼児から高齢者の方までおよそ50名の方が参加し、今回は5km 10kmコースは浅川地区の避難所を巡りながらウォーキング。3kmコースは、子どもを中心に簡易担架やロープワークの講習を行い、防災クイズをしながらゴールを目指しました。ウォーキングを通じて防災も学ぶことができ、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。





平成25年度

邦楽地域活性化事業

10月12日(土) 海南文化館



文化館でのワークショップの様子

箏のワークショップを開催しました。子供から大人（初心者）までを対象にして、初めて楽器にふれる方も楽しみながら体験でき、皆さん真剣に取り組んでいました。終わりには、演奏家によるミニコンサートも開かれ、参加者たちはプロの生の演奏も聴くことができ、大満足の様子でした。

また、前日の10日(木)～11日(金)の2日間は、町内の各小学校で5・6年生を対象にアウトリーチが行われました。これは、直接演奏家が学校へ出向いて、音楽の指導や説明をしながら、児童の皆さんに音楽を楽しんでもらおうというものです。各学校の児童の皆さんも日頃あまり耳にしない箏の音色や楽器を興味深く見ていました。



海部小アウトリーチの様子



海南小アウトリーチの様子



穴喰小アウトリーチの様子



邦楽アンサンブル糸音による箏の演奏

町立博物館では秋の企画展として、10月19日(土)から11月17日(日)まで、海陽町在住の現代抽象水墨作家、野間文男さんの絵画作品等40点を展示しました。この企画展は当博物館の開館15周年記念として開催され、文化祭期間中をはじめ町内外より多くの来館者が作品を鑑賞しました。

作者の野間文男さんは兵庫県のご出身で、海陽町穴喰浦那佐にアトリエを構えて創作活動が続けられています。昨年、ルーブル美術館・世界遺産登録20周年記念企画において、作品「まどろみの一瞬」によりフランス芸術最高勲章を受章され、作品は本展覧会会場にも展示されました。

ぼんじん 墨滴の譜 野間文男絵画展



野間文男絵画展の様子

野間さんが描き出す墨の世界は、ご自身の思いの源流を成す禅の心が絶妙のハーモニーを奏でており、時に金粉などを効果的に取り入れた作品づくりにより、作家特有の感性が満ち溢れています。

ました。

また、11月9日(土)には、展覧会会場の一角となったエントランスロビーにおいて、邦楽アンサンブル糸音(西本律美外三名)による箏の生演奏も行われました。ご自身(風人)も尺八を奏でられ、「まどろみ」等全五曲の楽曲が会場の作品に彩りを添えました。



フランス芸術最高勲章を受章された作品「まどろみの一瞬」

穴喰俳句 十二月

訃報くる年賀はがきの発売日 元木朱子
 法律の相談の会秋澄む日 陸田ヨネ子
 空青く洗濯物に赤とんぼ 梅田千恵子
 みな揃ふ二十八戸や秋祭 寺崎照代
 日の恵み風の恵みや吊し柿 間戸谷恵子
 マネキンの衣装髪形みんな秋 鍛冶田 晟
 無花果いぢじくのうまみに気づく五十路かな 新井久実
 天高し魚市場に鳥舞う 阿津敏美
 母のいて母と向き合い障子貼る 山本球子
 おじさんが元気な証拠新米こめ届く 新井駿也
 佳き秋日村に新築植の音 藤川照子
 夕焼の名残りのありて一日暮れ 中島 時
 水すこし溜まって終り秋祭 木下野生

海南俳句 十一月句会より

終日のひとりの立居秋深む 廣瀬克子
 なかなか写真撮らせぬ七五三 谷口洋根子
 支え合い生きる十軒実南天 富田聞二
 身構える蠅螂に見る武者の影 新居利之
 秋刀魚提げ寺の裏門立ち止まり 岡田賀代子
 十夜衆想いそれぞれ手を合わす 平道はつ子
 亡き妻や柚子摘みし日の遠ざかり 岳山祐弘
 愛犬と杖をたよりに芒道 西澤初江
 柚子搾り体の芯まで香の染みて 鍛冶崎郁夫
 飛行機の翼も染める赤とんぼ 田村航也
 父の声母のこゑする鵲日和 武知陸子
 背景は紅葉山なりはいポーズ 田中たち子
 秋冷の芙蓉の花や三日咲き 叶岡陽二
 燃える秋名物という土佐の寿司 津川須美江
 紅葉狩山のこんやくよく売れて 橋本幸子

海部ひまわり俳句

芭蕉忌や言葉は永久に生きており 津田 一
 黄昏や村の外れの柿紅葉 西本公明
 蓮根に穴ある不思議明日のぞく 榊原礼子
 冬めくや船も灯ともす鞆の浦 南 歌子
 新聞のはや朝寒をとびきたる 松田嘉子
 町に出るゆるき坂道秋しぐれ 元木美枝子
 たそがれのロードレースに風かおる 佐藤美代子
 秋日和親子でつどうなじみ店 穴戸道子
 テーブルにりんごが一つ昼下がりに 岡 育代
 災難も不幸もあるや神の留守 川野 照美



海南短歌会

風音のように聞こゆる潮騒の波頭を見んと家を出でゆく
土谷 公代

長き夜も短く思う今宵なり月夜のもと(三國志)読む
宮川 満江

七年をすこやかに生き二度目なる五輪を見んか誰彼に言う
細野 綾子

夜なきする児の母しきりにあくびする新米ママの愛おしきかな
魚見 妙子

ひととびに冬日和なる寒き朝露をふくみて尾花焔めく
蛭子 美恵子

心なき風の渡れり若草の揺らく想いに友は寄りそう
大久保スエ子

穴喰短歌会

生き継ぎて苦渋の沁みる今宵なり捌かれてなお喘ぐ魚の眼
大黒 千枝美

やや冷えし風を溜めつつ採る萩のうす紅に宿る夕光
石井 町子

暮れ残る山のさびしももみじ葉は秋の終りを告げてかがよふ
山崎 千栄子

霜枯れの野菊を摘みて詫びし日々睦みの友よ訪ねくれませ
桑野 亀乃

今日もまた政治と津波数知れず不安山積われらの老後
舛谷 恂子

大いなる枝を広げし田棚柿たわゝに実り摘む人を待つ
三野 みよ子

若き日の「八重の桜」に見る蘇峰亡父と交せし晩年の手記
田井 晴代

網代川柳文化祭川柳大会より

いやな事流してくれる里の海
太田 一洋

バランスをとって歩くが前かがみ
椎崎 日和

前略の後が続かぬ筆不精
北川 弥生

引退は拍手をくれる内にする
風呂谷 いずみ

外弱く内では強いペンケイだ
福岡 純山

内外を問わず不穏な風が吹く
高木 柳月

挫折から人の痛みがよくわかる
中村 あかり

良い人と買いかぶられて脱げぬ面
石垣 小道

仲直りしたい右手が頭掻く
井上 可楽

目張りしておこう幸せ逃げぬ間に
黒岩 一平

ふらふらと極楽とんぼも年をとり
山本 三久

第四五号の海南俳句に誤りがありましたので、訂正
してお詫び申し上げます。

鍛治崎郁夫さん作

鯛雲行方は一つ隣り千々(誤)↓

鯛雲行方は一つ鱗千々(正)

トピック

町指定有形文化財（工芸品）
岡田一郎氏所蔵

刀 あしのかいふじゆうじよし
阿州海部住氏吉 文久三年二月吉日

この海部刀は、幕末の典型的な
うちがたな
打刀姿で、有名な秋山伊助の所持
刀「伏見の百人斬り」の異名をも
つ豪刀である。表銘・阿州海部住
氏吉、裏銘・うらめい文久三年二月吉日。

長さ75.7cm、反り1.8cm。本刀に
は、健全な阿波拵あはごしが付いている。
海陽町立博物館の寄託資料として
常設展示されている。

